

ツキ板を波板状に加工

店舗内装などで提案

WOOD MAKER JAPAN

この技術は0.5mm(1・0mm厚の木材(ツキ板)を押し出し成型で波板状に加工するもの。木材で段ボールのような形状のボードを作れることから、新たな木質素材として提案していく。

e. wood+は、イマイグループの合板

製造会社のランバートック工業(青森県弘前市、奥山悟社長)でカバ、ウォールナット、ブナ、ナラなどの広葉樹をロータリーでツキ板加工し、これを押し出し成型で波板状に加工する。樹脂などを使わずに波板形状に成型することが可能で、6

5mmの山形状を連続で作れる。

この波板状の木材をDIY用素材として販売している。また、同社マーケティング部(長野市)で、店舗内

し、間接照明としての意匠性なども提案できる。ハニカム状の棚板とした場合も、下部から照明を当てることで独特の温かみのある雰囲気を出せる。

は、リンナイ市、内藤弘康金賞、ニチハ中龍夫社長)、中日精工(愛西市、山本哲司)優秀賞を受賞

今井産業(青森県平川市、今井公文社長)グループのWOOD MAKER JAPAN(同)は、薄い木板の連続曲げ加工技術(波板ボード製造システム及び製造方法など特許取得)による「e. wood+」を使った店舗内装、ディスプレイの提案を進めている。

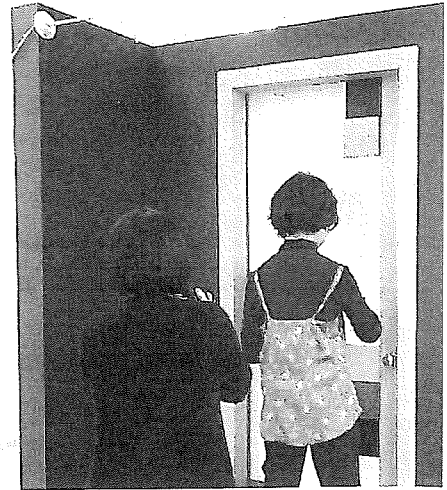


e. wood+を持つ今井社長

装、ディスプレイなど用途に提案し、スポーツ用品のシヨップなどでも採用されている。厚さ0.5mm、0.5mmと薄いため光を通して、間接照明としての意匠性なども提案できる。ハニカム状の棚板とした場合も、下部から照明を当てることで独特の温かみのある雰囲気を出せる。

愛知県はこの資源循環や環境低減を目的と、的な取り組み「2018年賞」の受賞者。木材・建築は、リンナイ市、内藤弘康金賞、ニチハ中龍夫社長)、中日精工(愛西市、山本哲司)優秀賞を受賞

実物大模型を見学する学生ら



向けのドア」「家族のコミュニケーションを豊かにするドア」「間仕切りとしての機能と美しさ」を両立した

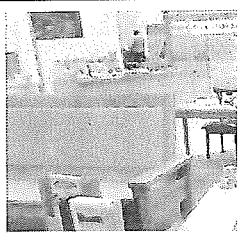
モックアップ(実物大模型)を制作。17年12月13日に井波工場で大試作プレゼンテーション会を開いた。参加者からは「自分のアイデアが形になる感動を実感できた」「実際のカタチに落とし込

表理事組合長)は、地場産温帯広葉樹資源の付加価値活用を目指して木製家具の商品開発に取り組み、今年から本格的な販売を始め。登米市では登米市森林管理協議会が中心になってFSCのFMR認証、COC認証取得

COC認証製品として売り出していく。

登米産温帯広葉樹資源の活用については、先行して市内の小学校学童机向けに、コナラを原材料とした天板(ウレタン塗装)をこ

続き、昨年からを原材料とし、製家具の開発を今年に入って



リンナ